

ネコに夢託す

小樽運河を守る会



「運河を守る会」紙芝居を使って語る仲間たち
56年9月、小樽運河

● 昭和57年

● 2月23日
宇井紙講演会(天理教館)
メンバー、中、松岡、ケム、庄部
観客100人
紙芝居の本5冊 2000円

● 2月28日
北海信金前
メンバー、中、松岡、塚本他1名
観客90人
紙芝居の本8冊 3350円

● 3月15日
医師会館
小樽運河を考える市民集会
メンバー、中、松岡、ケム、庄部
観客100人

● 3月17日
高島漁港
メンバー、中、松岡、ケム、塚本、庄部
観客200人

STV「ズーム・イン・朝」
録画

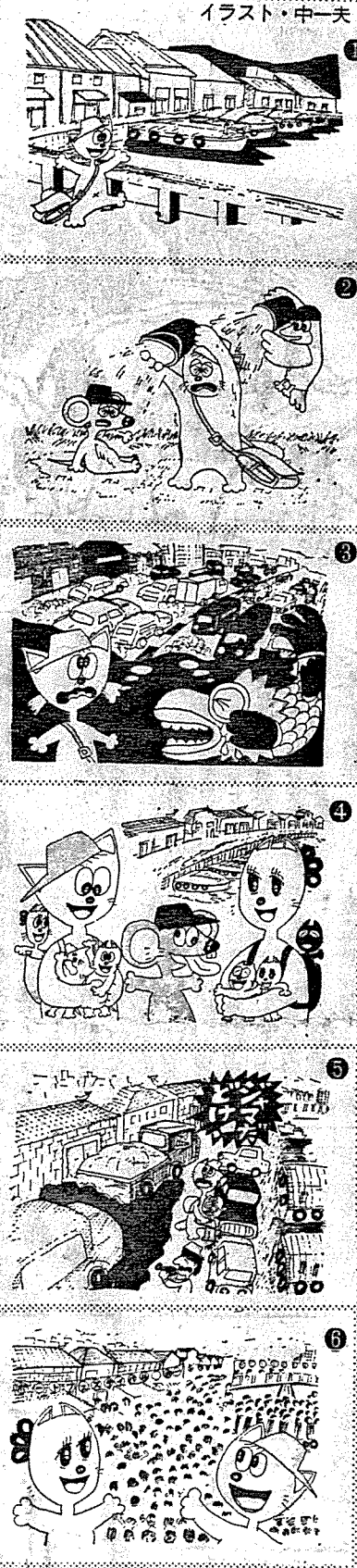
● 4月11日
都通リ電気館前
メンバー、中、松岡、塚本、庄部
観客45人



「運河を親子一緒に考えてもらおう」と、小樽市内の働く者たちが、ネコを主人公にした紙芝居を作り、リヤカーを引いて各所で披露している。運河をはじめ小樽の街並みの魅力や、それを守ろうとする熱意を伝えた内容で、若者たちはネコに希望を託し、「運河を守れ」と訴えている。公演は既に五十回を超え、至る所で、母親や子供の人がたがいで

紙芝居「ニヤン太は運河が大好き」

◇第一部
ニヤン太の大冒険
ニヤン太は、小樽市内の空き地の下カンの中で生まれたネコ。ある日、一人でマチに冒険に出た。美しい街並みが続く小樽の石造倉庫群と運河にたどり着く。



イラスト・中一夫

◇第二部
ニヤン太の大恋愛
ニヤン太は、倉庫の屋根の上で暮らすシャチホコおじさんと知り合いになる。おじさんが泣き止まない。ニヤン太が、シャチホコおじさんに恋をした。スパーツカーを乗り回すニヤン太のライバルがいた。人間たちが、この運河を守り、大きな道路を造る。おじさんが泣き止まない。ニヤン太の涙が、おじさんの涙を拭いた。

◇第三部
ニヤン太一家の大活躍
ニヤン太は、おじさんと結婚した。二人は、おじさんの夢を叶えるために、運河を守る会を立ち上げた。おじさんが泣き止まない。ニヤン太の涙が、おじさんの涙を拭いた。

原画を編集、本も出版
紙芝居を作ったのは、小樽市花園四ノ三ノ二、新聞販売店手伝の中二夫妻(おじさん、おばさん)だ。二人は「小樽運河を守る会」紙芝居チームの若者たち。五十五年九月、小樽市で開かれた小樽運河を守る市民集会で七つのプロジェクトチームとともに紙芝居チームが発表された。分りやすい紙芝居で運河問題をみんなが考えよう、と、同市富岡二ノ二一

「なんや、がっしりして、落ち着いた風景なのだろう。運河の周りが、一番のまちらしい風景だ」。そう思ったニヤン太は、毎日、運河に遊びに来るようになった。